

## 地すべり／崩壊

昭和 57 災（島根県浜田市・安山岩）当時に発生したものと思われる。馬蹄形クラック、円弧状のすべり面、基岩面形態に規制された複合すべり等が認められるが、すべり面粘土やその付近での湧水は確認できなかった。



○火砕岩の崩壊（大山）・・・豪雨災害．右岸側は直線かつ鉛直状の側壁を形成．滑落崖直下には水の噴出した跡が認められる．



○憤砂現象・・・花崗岩地帯. 写真のような砂の噴出跡から, 相当の伏流水があったものと判断される.



○急傾斜地における潜在的破断面

表土層がはだけた箇所で偶然に発見したもので，“クリーブ等による多くの開口クラックを形成→地表水の浸透→水圧の発生→崩壊”といった発生機構が考えられる。



○露岩斜面脚部からの緩み



○どう見ても枠内における崩壊と思われるが、実際には宅地レベルに達する深層崩壊と解析された現場。  
地すべり左岸側では、対岸の山に規制され、深層部での滑動はできない。

歪計観測結果でも、中腹部での滑動を裏付けるデータはあるが、深層部ではノイズのような歪しか観測されていない。



○地すべり地からの土石流



○造成後の退行性崩壊

